

子育て支援部

- ①わはは・ひろば高松
- ②わはは・ひろば坂出
- ③わはは・ひろば香西
- ④高松コーディネーター
- ⑤まるっ子ひろば
- ⑥まるっ子コーディネーター
- ⑦まるっ子一時預かり
- ⑧まるっ子事務所

①令和5年度事業報告／子育て支援部／わはは・ひろば高松

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
(地域子育て支援拠点事業費) 8,398,000 円	正1 P3	① 4426 人 ② 320 組 ③ 236 組	① 5510 人 ② 404 組 ③ 310 組	4.4

① 総利用者数②登録組数③新規組数

【今年度の目標】 みんなと子育てできるひろばづくり

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他	評価
1, イベントの充実	1. 商店街の方とイベント実施(2回)し顔の見える関係づくりとなった。 10組 20名参加 4店舗 満足度 100% 2. 1年を通して、寝相アート・足形アートなど赤ちゃん向けのイベントを実施したことで、新規登録者の60%が1歳未満での登録となった。 3. 外国人ひろばの実施 6組登録 他機関とも繋がり、情報提供・交流の場となった。	5
2, 地域と繋がりをつくる (重層的支援体制整備事業)	1. ボランティアスタッフが先輩ママとして転勤族の会・座談会への参加各会 6組満員 卒業してもひろばと繋がるきっかけ・役立ち感につながった。 2. 讃岐おもちゃ美術館への訪問(1回) 香西スタッフと一緒に赤ちゃんひろばへ訪問 まだひろばを利用したことがない方と繋がるきっかけとなる。	4
3, 妊娠期からの利用促進	1. 市内の産院にマタニティイベントのチラシ・通信の配布(4か所)産院からの紹介でイベント参加につながった(2組)	4
4, スタッフのチームワークづくり	1. 防災訓練 12回実施(年12回)北署の方に不審者対応を学ぶなど、日頃から安全管理をする意識を高めることにつながった。 2. 連絡ノートを使い業務の進捗状況などを共有するようになった。 スタッフ全員で情報共有することができた。	5
5, 他部門との連携	1. 広告主さん主催のイベントの実施(しん治歯科)参加組数 6組 R6年度も継続して講座を行う(年6回)	4

【特筆すべき事項等】

- 1-1 外国籍の方の登録 6組あり、日常的にひろばを利用する様子も増えている。それにより、コミュニケーション不足からくる孤立感を感じている方も増加傾向にあった。予防的視点で関われるように、コーディネーターと協働で、外国人ひろばを行い当事者同士が交流する機会を作った。保健師や他拠点からの紹介もあり、今後ひろばで見守りながら必要なタイミングで他機関に繋いでいけるよう努める。今後も継続していく予定。
- 3-1 妊娠期からの利用促進のため、助産師さんと協働で『プレママ講座』を実施した。
沐浴・抱っこ仕方などの体験や、産後のホルモンバランスについてなど、ひろばの良さを活かしながら会を行った。産院からの紹介で参加された方も増えており、産後スムーズに利用につながるよう関わることができた。
- 4-1 新人スタッフ研修も兼ねて、防災訓練を1年間通して行った。繰り返し訓練を行いながら、常に課題を改善し、どんな場面でも命を守る行動ができるように今後も続けていく予定。

②令和5年度事業報告／子育て支援部／わはは・ひろば坂出

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
(地域子育て支援拠点事業費) 8,398,000 円 (駐車券補助)150,000 円	正1 P3	①総利用者数 4,000 人 ②登録組数 ー 組 ③新規組数 120 組	① 4,957 人 ②167 組 ③104 組	4

【今年度の目標】 赤ちゃん期からつながるひろば

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他	評価
1. 赤ちゃん期からの利用の促進	1. 赤ちゃんひろば月3回開催(36/36)参加組数平均 6.5/5 組 2. .3, 4ヶ月健診訪問実施(11/12)赤ちゃん用通信配布(11/11) 3. 0歳児登録数 76/100 人 4. SNSにイベントや日々の様子を投稿した。フォロー777/1000	4
2. 利用者の力を活かしたひろばづくり(ボランティア活動)	1. フリーマーケット(年2回)開催。準備や店番は利用者ボランティア(16組登録)と連携しながら進めていった。 2. 利用者のアイデアや特技を活かしたイベントの実施(5回実施)	4
3. スタッフの連携とスキルアップ	1. 朝礼時にガイドライン勉強会、ひろばの業務見直し実施。振り返りでは情報共有、業務報告を中心に行う。 2. 他拠点での研修を定期的実施。(5~10月)各スタッフ1回以上外部研修に参加し、研修内容をスタッフで共有。	5
4. 地域との継続的なつながりづくり	1. 地域マップ・パネルの設置、情報コーナーの整理を実施。 2. 地域のイベントに合わせた開館(土曜デー、坂出大橋祭り) 3. 地域の関係機関やボランティアによる講座開催。(年間 76回)	4

【特筆すべき事項等】

- 1-1 赤ちゃんひろばは毎回テーマを決めて目的をもって参加できるように工夫した。特に寝相アートは人気が高く、さらに交流が深まるよう利用者と一緒に準備するなどしながら進めていった。赤ちゃん向けイベントの増加によりイベントが過密になりがちだった。利用者が自由にゆったりと過ごせる場所や時間の確保が課題となった。
- 1-2 保健センターで実施する乳児健診にて直接パンフレットを見せながら広報活動を行った。赤ちゃんに特化した通信、ひろば来館記念の足型アートの紹介など来館のきっかけ作りをした。
- 2-1 恒例となっているリサイクルフリマを年2回開催。毎回利用者にボランティアを募り、商品の仕分け、当日の店番を分担して行っていった。昨年よりボランティア登録も増え(16組)、利用者同士の交流も楽しみながら活動できた。収益で購入する大型絵本は、ひろば内でアンケートを実施し決定。その後ひろばで読み聞かせを楽しみ、ボランティア活動の効果を感じられる体験としていった。
- 2-2 利用者の得意なこと、楽しみとなるようなアイデアをイベントとして企画した。講師や説明役を利用者が担当することで親しみやすく参加しやすい雰囲気ができ、利用者同士の交流も深まった。
- 3-1 ガイドラインの勉強会は朝礼時に内容に沿って、それぞれの感想や日々の活動を発表した。お互いの思いを聞き合うことで自身の学びにもつながった。後期はひろばの業務タスク表の作成に取り組み、ひろば業務の内容、目的を整理しスタッフ内で共有することができた。
- 4-2 地域のお祭りや地元商店街のイベントに合わせてひろばを開館し、幅広い層の家庭への周知に努めた。坂出大橋まつりの夜間開館(授乳、おむつ替え)には19組59人(父親12名)の利用があった。
ひろばの利用者が地域のイベントに参加し、地域を知る機会となるよう情報提供をしていく。
- 5-2 利用者が地域の支援者や関係機関と出会い、つながるきっかけとなるような講座を企画する。エリアミーティング・サブリーダー—ミーティングを実施し情報共有の場とする。

③令和5年度事業報告／子育て支援部／わはは・ひろば香西

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
(地域子育て支援拠点事業費) 10,192,000 円	正1 P3	①4300 人 ②——組 ③ 140 組	① 4813 人 ② 231 組 ③ 112 組	4

①総利用者数 ② 登録組数 ③ 新規組数

【今年度の目標】 地域に根差したひろばづくり(地域を広げる)

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他	評価
1,妊娠期からの利用の促進	1. 通信配布先を増やす(2 か所/2 か所) 2. 産婦人科での両親学級に訪問し広報する(11 回/12 回) 3. プレママ・プレパパ日の実施(7 回/4 回)	3
2,地域とのつながりを深める(重層的支援体制整備事業)	1. 多世代交流イベントの実施(2 回/2 回) 2. 学生ボランティア募集(5 人/3 人) 3. シオンさんとの交流(6 回/6 回) 4. 地域の子育てサークルへ訪問(13 回/12 回) 5. 情報発信用 SNS の開設「わはは情報局」(フォロワー57 人/100 人)	4
3,情報発信	1. 妊娠期向けの情報提供(12 回/12 回) 2. 情報誌・iPad を使って地域の情報提供する	4
4,親子の経験と体験を増やす	1. 季節・月齢に応じた子どもの楽しめるイベント実施(4 回/4 回) 2. 学びの機会として講座を増やす(12 回/6 回) 3. 利用者同士でつながりを感じられる機会をつくる(8 回) 4. 育休復帰後の生活について話し合える会の実施(2 回/2 回)	4
5,他部門との連携	1. 他部門のイベントを SNS で広報(8 回)	3
6,スタッフの連携	1. 研修参加(20 回) 2. ホワイトボードの活用(業務の見える化)	4

【特筆すべき事項等】

- 1-3 平日のプレママイベントではプレママの参加は1組と少なく、座談会では参加を増やすことが難しく感じられた。
- 1-2 学生ボランティア募集はふれあい事業や職場体験の機会を利用し、広く広報ができた。また活動日を長期休暇中にすることで学生が参加しやすくなったと感じられた。
- 2-4 地域の子育てサークルは香西の「いちごママクラブ」、下笠居の「なかよし教室」に加え、鬼無の「桃太郎キッズ」、弦打の「つるピーひろば」、香西幼稚園の「のびのび広場」が増え、合計236人の親子と出会う機会が作れた。
- 3-1 Instagramにて妊娠期向けの記事を投稿した。妊娠期の方への程度届いたのかは不明であった。
- 4-3 アラフォーの会やボランティア活動の時間をつくることで、利用者同士でつながる機会となった。
- 季節によって増減していた利用数の増減が今年度をあまりみられなかったことから、継続的にひろばを利用する方が増えたのではないかと考えられる。また、利用者ボランティアにアンケートを実施したところ100%の方がボランティア同士での交流ができたという回答があった。

④令和5年度事業報告／子育て支援部／たかまつ地域子育て支援コーディネーター

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
(たかまつ利用者支援事業費) 8,686,000円	正1 P2	継続人 情報提供件	継続33件 情報提供464件	3.7

相談件数(継続・情報提供)

【今年度の目標】身近な相談相手となるために

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他	評価
1 情報提供	1.子育て情報やイベントの報告を HP・SNS に、ひろば掲示板にもテーマを決めて記事を掲載した。情報ファイルの見直し・整理を行った。 2.幼稚園座談会を開催し、幼稚園選びの情報提供を行った。 3.CN 業務の認知度 83.1%となり、目標の 80%達成。	5
2 相談	1.ひろばの滞在時間を増やしたり、香西ひろばに自己紹介を掲示したりすることで、CN を知ってもらい安心して相談できる相手となるよう努めた。 2.相談の質を向上するために、話し合いやロールプレイを行い学びの時間を持った。	3
3 広報	1.通信やHP・SNSなどで訪問予定や開催イベントを掲載し、活動の見える化を行った。 2.ひろば掲示板を活用し、CN の役割を知ってもらう機会とした。 3.ひろば CN の日以外に相談できることを様々な機会で見出し、相談につなげた。 4.CN 相談したことがある 67.7%となり目標 70%未達成。新規利用で CN を知っている人と答える人 64%となり目標 60%達成。	4
4 他機関連携	1.助産院、児童発達支援施設、医療機関などへの訪問や、地域連携の各種会議に参加し顔の見える関係づくりに努めた。 2.しごとプラザ高松と協働し、お仕事座談会イベントを開催した。 3.相談ケースの必要に応じ、市・県関係機関、他機関 CN 等と連携を行った。他機関連携ケース 6.3%となり、目標 10%未達成。	3
5 資源開発	1.コロナ過で訪問を中止していた施設に再訪問を行うようになった。 2.アイパル香川と連携し、外国人向けイベントを試験的に実施した。 3.妊娠期、子育て期のイライラする感情と付き合い方を学ぶ講座を開催した。	3
6 チームワークを高める	1.月2回のミーティングを開催し、業務内容を確認や困りごとの解消を行った。 2.CN とひろばスタッフ共有の月間予定表を作成し、円滑な業務運営を図った。 3.ひろばスタッフとの協働で、緊急対応マニュアル作成や避難・防災訓練の実施を行った。	5
7 他部署連携	1.他部署で開催するイベントについて、広報告知を行うよう努めた。	3

【特筆すべき事項等】

1—3 CN 業務の認知度について、CN が保育所・幼稚園などの相談ができる人と知っている 83.1%。相談件数は 464 件で、相談内容としては、保育所・幼稚園などの就園や子育て支援事業に関するものが多かった(50.1%)。幼稚園・保育所に関すること以外の相談も出来ることをお知らせし、幅広い相談に対応できるようにしていきたい。

3—4 拠点新規利用者の中で登録時に CN を知っていると回答した人が 64%(高松ひろば 59%、香西ひろば 69%)と、昨年度62%より増加しており、取り組みの成果がみられた。

⑤令和5年度事業報告／子育て支援部／まるっ子ひろば

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
(地域子育て支援拠点事業費 8,575,000円)	正1 P3	① 7,500人	① 8,380人	4.3

【今年度の目標】 赤ちゃん期からの利用促進

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他	評価
① 情報発信	1.SNSを毎日投稿(インスタグラムは毎日、ホームページは週2回程度) 2.インスタグラムフォロワーを増やす(1485/1200人) 3.新規さんに向けての記事を月1回投稿。 4.大人が楽しんでいる様子を月1回投稿。	5
② 利用につながるイベント	1.専門家の情報提供や座談会、先輩ママとの交流会、母のお楽しみイベントなど、テーマを決めて毎月赤ちゃんひろばを行った。(624/600人参加) 2.ひろば利用のきっかけとなるよう、毎月ひろばデビューデーを開催した。(96/80人登録) 3.大人が楽しめるイベントを開催(年9/4回)	5
③ ひろばの認知度を上げる	1.健診(3.4か月、1歳6ヶ月)でチラシを配布した。3,4か月健診では、ひろばスタッフが出向きひろばについてお知らせした。(年3/4回)健診がきっかけでの登録につなげた。(38/40人) 2.広く知ってもらえるきっかけとなる情報誌掲載内容の年間計画を立てた。	3
④ スタッフの連携、人材育成	1.週1回ひろばミーティングを実施。業務の進捗状況の確認や情報の共有を行った。 2.テキストの読み合わせを館全体で実施。	4

【特筆すべき事項等】

目標数値:0歳児の登録247/260人。内、坂出市147/170人。

①-3 利用前に知りたかったことを利用者によりサーチし、そこからテーマを決め投稿したことで、新規利用者が欲しい情報をお知らせできた。

②-1 赤ちゃんひろばのおしゃべり会では、様々なテーマで話すことで育児の悩みを相談したり共有するだけでなく、子どもの成長をともに喜んだり、世間話を楽しんだり、情報交換の場であり息抜きの場となっている。

②-3 新規登録時アンケートにて「自分の知り合いができる」「自分自身が楽しめる」が昨年度よりも多くなっているため、他の利用者との交流や制作など大人が楽しめるイベントを計画し開催した。また、イベントの始めに自己紹介をしたり、サポーターズにお手伝いに入ってもらったり、一緒に作業したりと、色々な方と関われる環境を意図的に設定した。

③-1 健診お知らせの同封チラシと、健診時の配布チラシを見直し、新しく作成した。ひろばの様子や、利用者親子の様子が分かるように、写真が多く目を引くデザインに変更した。

④-1 ミーティングだけでなく日々のデイリーノートを活用することで、利用者との関わりでの疑問や困りごとなどを振り返ることができた。振り返り時に他のスタッフとも共有することでスタッフ全員の学びにもつながった。また、それぞれの思いや考えを知ることができ、コミュニケーションツールの一つとなっている。

④-2 自分の考えや思いを話すだけでなく、他のスタッフが話したことをまとめて書記することや、順番に司会を行うことでファシリテーターとして勉強会を進めることも練習し学ぶことができた。

⑥令和5年度事業報告／子育て支援部／さかいで地域子育て支援コーディネーター

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
(利用者支援事業事業費) 7,782,000円	正1	②80%	①908人 継続:745人 情報提供163人 ②70%	4.2

②目標数値(ダブルケア・こころの相談会・生活の困りごと講座の参加者アンケートにて相談先について知ることができたと感じた割合)

【目標】 家族のことも相談できる場所として認知される

(ダブルケア・こころの相談・生活の困りごと)

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他	評価
① 訪問先での情報提供	1. 訪問先(子育てサークル・図書館・わはは・ひろば坂出)にて情報提供を行う。 2. イベント・講座終了後の一週間、講話内容をお知らせする時間をひろば開館時間内に設ける。	3
② 当事者、予備軍など幅広い相談が支援者について知る機会をつくる。	1. 相談会・座談会を定期的に開催する。(ダブルケアカフェ 12/12、こころの相談会 4/5※警報発令にて1回中止、暮らしの困りごと座談会 4/4)(58%/ひろば定員の60%以上の参加)	4
③ 幅広い層にコーディネーターを知ってもらう。	1. 地域の方・支援者・高校生ボランティアにイベントに参加してもらう(2/2) 2. 地域の方・支援者・高校生ボランティアにむけた地域の方・支援者・高校生ボランティアにむけた見学会・説明会を行う。(2/2) 3. 日曜相談日にデビューデーを行う。(2/2)	4
④ 地域の支援者と連携し地域ネットワークを構築	1. 地域ネットワーク会議を実施。(4/4) 2. 行政の業務・役割について合同研修を実施。(2/2)(けんこう課・中讃保健所・地域包括支援センター) 3. 発達障がい相談会・オフ会(不登校・いきほり支援)・性教育・パパ座談会の実施(82%/予約定員の70%以上の参加)	5
⑤ スタッフ連携	定期的なミーティングを実施。(2週間に1回)	5

【特筆すべき事項等】

- ① -1 まろっ子では出会えない親子に情報提供することができ、講座参加に繋がったケースが多数あった。
- ② -1 参加率が低迷していた座談会はワークショップをあわせて行い参加率が上がった。ワークショップを行いながらの座談会を実施することで何気ない会話から本人が支援を受けることができることに気付いてない方が支援につながり継続した支援ケースが数件あった。
- ③ -2 地域に回覧しているまろっ子新聞へのご意見を頂き、改善し地域の方が産直、パン販売に来館してくれるようになった。地域のボランティアサークルがひろばに読み聞かせに聞いてくれるようになった。
- ③ -3 パパ座談会が始まって5年が終了。一時、コロナにて参加率が下がったが父親の産後うつの子の取材を受けたり、毎回、新規の方が参加するようになった。

⑦令和5年度事業報告／子育て支援部／まるっ子ひろば／一時預かり事業

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
(一時預かり事業費) 3,107,000円	正1 P1	① 50人 ② 450人	① 62人 ② 522人	4.8

①新規数 ②預かり枠数

【今年度の目標】 保護者が安心して預けられるようにする

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他	評価
① 利用人数	1.ひろばイベントにて登録会を実施し、新規登録数が増えた。(年4/4回、15/12人)	5
② 保育内容	1.アンケートの「子どもの成長を感じたか」に対して、「感じる事ができた」との回答が89/80%以上と目標達成した。	5
③ 保護者対応	1.アンケートの「安心して預けられたか」に対して、「はい」との回答が100%であった。 2. お迎え時に保護者に連絡カードを渡し、預かりの様子や子どもの成長を共有した。	5
④ 他機関連携	1.週1回一時預かりミーティングを実施。 2.各部署と進捗状況の共有を密にし、各部署同士で相互サポートを行った。	4

【特筆すべき事項等】

①-1 ひろばでの一時預かり説明会では、保育士から直接話を聞き質問することで、不安や疑問を個別に質問できることが安心につながったと考えられる。登録会のニーズが年度の中頃から高まる。預ける理由はリフレッシュが9割を占める。預ける対象者が孫をみている祖父母利用も増えている。祖父母のレスパイトに利用してもらえるための、知ってもらう広報も今後は考える必要がある。

②-1 他施設へ視察・見学に行き、そこで学んだことを参考に保育記録の見直しを行った。子どもの発達状況や変化を記録しやすく見直しやすくし、臨機応変に対応することができた。

③-1 登録時の負担を減らすため、乳幼児調査票と発達状況調査票を見直し、簡素化した。そのかわりに、2か月に1回は子どもの発達状況について保護者と確認を行うようにした。

③-2 送迎時の聞き取り内容・一時預かりでの様子を保育記録に記入し、保護者と保育士が同じものを持つことで、情報を共有できるようにした。情報の差異を防ぐことが安心にもつながったと感じる。

④-1 業務の進捗状況の確認や、預かり時の子どもの様子や預かり中の困りごとなど情報共有することで、預かりスタッフの連携が密に行えた。

④-2 朝礼時には、前回の預かり時の様子やアレルギーの有無などをスタッフに共有するため、他部署スタッフも連携し安全・安心して保育できる体制をとることができた。また、預かりの空き時間を活用し、ひろば業務や事務作業、環境整備などサポートを行うことで、他の業務の状況理解へつながった。

⑧令和5年度 事業報告 子育て支援部 (まろっ子事務局)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
(センター管理事業費) 6,236,000 円 300,000 円 フェスティバル①②※	正 1	① 14,000 人 ②一組 ③一組 ④一人	①15,092 人 ②647 組 ③318 組 ④ 2,214 人 フェスティバル①79 組 256 人 フェスティバル②13 組 29 人	4

①総利用者数 ②登録組数 ③新規組数 ④日祝利用者数

※フェスティバル①:子育て世帯対象 フェスティバル②:妊娠期対象

目標【安定した館の運営と幅広い層の利用者増加を促す】

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他	評価
重点項目 ① 施設管理	1.浄化槽、遊具などの保守点検のスケジュール調整・管理を行った(業者による遊具点検年1回(1/1)、浄化槽保守点検3ヵ月に1回(4/4)、浄化槽法定検査年1回(1/1))。 2.敷地及び隣接箇所の清掃・美化を行った。	4
② 職場環境を整える	1.3Sについて年間計画を立案・実施した。 2.資料、共通業務の可視化を行い、業務均一化を行えるようにした。	4
③ 広報の充実による利用者増	1 館全体のアンケート結果をデータ化しその結果に基づいた計画的な広報活動を各部署と役割分担し実施した。 2.まろっ子 HP 月 2 回(24/24)・坂出市広報年 12 回(12/12)の内容を、館の特性をアピールし分かりやすいものにした。	3
④ 自主事業	1.子育て世帯対象のフェスティバル年 1 回(1/1)、妊娠期対象のフェスティバル年 1 回(1/1) 2.リサイクルデー年 2 回(2/2)	5

【特筆すべき事項等】

- ①-2 毎日の館内、敷地及び近隣との隣接箇所の清掃、閉館後のおもちゃの消毒、清拭など衛生管理を行った。
- ②-1 イベントや環境設定に応じた年間計画を立案した。実行にあたっては、毎月の計画をLINE WORKSにて全スタッフに共有し、各部署の計画に反映させることができた。
- ②-2 各事業の業務を洗い出した業務マニュアル、休日当番や受付用PCの操作方法などについてのマニュアルを作成した。また、事故発生時の緊急対応マニュアルおよび事故内容聞き取りシートを作成、全スタッフ、新規スタッフが共有し対応できるようにした。
- ③-1 新規登録時および更新時においてアンケートを実施、結果を共有した。利用のきっかけとして健診が少なかったため、コーディネーターが3,4ヶ月健診に訪問して広報、健診日から間を開けずにひろばイベントとしてデビューデーを設定するなど館全体で連携した。
- ③-2 広報誌では発行月に開催されるイベントの周知・広報、HPではそれに加え、季節に即した情報(屋外ひろばでの熱中症の注意喚起等)を掲載した。しかしながら、年2回の利用者アンケートでは、HPに対する認知度が約70%、坂出市広報の認知度が約40%であったため、さらなる広報が必要である。
- ④-1 新型コロナウイルス感染症5類移行により、子育てフェスティバルは出展数、予約定員等をコロナ禍前の規模に戻して開催した。ハローベビーフェスタは、昨年度初回開催に続き第2回目の開催となった。初回は冬季(2月)開催、第一子妊娠中のかたに限定したが、参加者を増やすため秋期(9月)開催、第一子に限定しないこととした。

* 12月より小学生向けの図書貸出を開始。3月末までの延べ利用者数50名。

事業推進部

令和5年度受託事業(報告)

- ⑨高松市 子育て支援総合情報発信事業(らっこサイト)
- ⑩高松市 ひとり親家庭等子育て支援総合情報発信事業(ひとり親冊子・サイト)
- ⑪香川県 地域子育て支援人材養成事業(子育て支援員・放課後)
- ⑫香川県 ライフデザイン事業(高校生ライフデザイン)
- ⑬高松市 乳幼児とのふれあい事業(ふれあい)
- ⑭香川県 女性が輝くリーダー養成事業(女性リーダー)
- ⑮高松市 放課後児童支援員認定資格研修業務(高松放課後)
- ⑯香川県 女性が輝く職場づくり事業(メンター)
- ⑰香川県 縁結び・子育て美容-eki(美容-eki)
- ⑱香川県 男性の家事・育児推進事業(男性家事育児)
- ⑲高松市 G7 香川・高松都市大臣会合関連事業

自主事業報告

- ⑳子育て情報誌『おやこ DE わはは』 Vol.107～Vol.112
- ㉑わははファミリーフェスティバル
- ㉒子育てハンドブック「たかまつ らっこ」協働発行事業(らっこ冊子)

管理部門

⑨高松市 子育て支援総合情報発信事業(らっこサイト)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
1,083,651 円	-	-	-	5
	実行して成果があがったこと			評価
⑥ サイト情報更新	<ul style="list-style-type: none"> ・「たかまつらっこ」冊子の改定内容を、サイトに反映 ・必要に応じて「らっこネットらのお知らせ」を更新 			5
⑦ 運営・保守管理	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ管理を含む、サイト運営全般 			5

【特筆すべき事項等】

・サイトセッション数:65,320 ページビュー数:137,240

⑩高松市 ひとり親家庭等子育て支援総合情報発信事業(ひとり親冊子・サイト)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
1,615,955 円	-	-	-	5
	実行して成果があがったこと			評価
① サイトの情報更新・運営・保守管理	<ul style="list-style-type: none"> ・「たかまつひとり親家庭サポートブック」の改訂内容を、サイトに反映 ・メール相談への回答依頼、返信業務 ・セキュリティ管理を含む、サイト運営全般 			5
⑧ 冊子改訂増刷	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭向け情報誌「たかまつひとり親家庭サポートブック」の情報更新確認及び冊子への反映、増刷業務 (A5 版 40 ページ 3,000 部発行)			5

【特筆すべき事項等】

・サイトセッション数:18,169 ページビュー数:25,689 ※7/5～7/31 まで解析サイト仕様変更のためデータとれず
 ・令和5年度たかまつひとり親家庭サポートブック 令和5年8月1日 3,000部発行

⑪香川県 地域子育て支援人材養成事業(子育て支援員・放課後)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
8,739,647 円	-	-	-	5
	実行して成果があがったこと			評価
① 子育て支援員研修	<ul style="list-style-type: none"> ・4コース8事業の研修実施運営 ・コース内容説明動画制作 ・広報受付業務 ・受講者への個別相談対応 ・フォローアップ研修の実施 			5
② 放課後児童支援員認定資格研修	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者受付対応(受講資格の確認) ・中讃会場、高松会場 2会場での実施 			5

【特筆すべき事項等】

・子育て支援員研修 8月28日～12月21日の期間で実施 申込270人受講修了者226人
 ・フォローアップ研修 2月25日 講師:県発達障害者支援センター「アルプスかがわ」センター長 新井隆俊さん
 ・放課後児童支援員認定資格研修 高松会場 65人(修了者58人)/中讃会場 55人(修了者55人)

⑫香川県 ライフデザイン事業(高校生ライフデザイン)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
1,334,896 円	-	-	-	5
	実行して成果があがったこと			評価
① ライフデザイン講座実施	<ul style="list-style-type: none"> ・1回 45分～100分で40人程度の人数を対象にした講座を実施。 ・合計800名程度の参加者を対象(県の方で希望調査・とりまとめ) ・キャリアコンサルタント保持者1名+1～2名の子育て支援スタッフで実施 ・高校側の希望に応じて、助産師と協働での事業実施 ・アンケートを実施し、結果については「colorful」に掲載 			5

【特筆すべき事項等】

・県内4校(高松高校・桜井高校・三木高校・高瀬高校) 21クラス 760人実施

⑬高松市 乳幼児とのふれあい事業(ふれあい)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
281,220 円	-	-	-	5
	実行して成果があがったこと			評価
① ふれあい体験授業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の親子と中学校を訪問し、子育ての現状や親の思いについて話す機会を持つとともに、中学生に赤ちゃんを抱っこする体験を提供 ・継続的なつながりづくりや、さらなる経験のために、子育てひろばでのボランティアの機会の提供 			5

【特筆すべき事項等】

・下笠居中学校 2年生 7月5日(水) 28名 ボランティア受け入れ 4名(香西ひろば)

・勝賀中学校 3年生 7クラス 204名 ボランティア受け入れ 7名(高松・香西ひろば)

⑭香川県 女性が輝くリーダー養成事業(女性リーダー)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
4,117,119 円	-	-	-	5
	実行して成果があがったこと			評価
① 研修実施	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動や組織・グループのリーダーになった、もしくはこれからリーダーを目指す女性等を対象に、全6回の研修を実施。 ・研修時の動画を撮影し、振り返りや欠席者フォローのため配信 			5
② 県内の女性活躍を推進するネットワークづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の女性のネットワーク「おいり」の立ち上げ ※メンター養成講座参加者、過去受講者対象 ・ネットワークキックオフミーティングの開催 			5

【特筆すべき事項等】

・8月23日～1月30日の間 全6回講座 参加者32名のうち修了証書授与28名

・12月12日ネットワーク立ち上げキックオフミーティング

・メイン講師 谷益美さん(株式会社 ONDO)

⑮高松市 放課後児童支援員認定資格研修業務(高松放課後)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
1,923,987 円	-	-	-	5
実行して成果があがったこと				評価
① 企画立案・進行・運営管理	・高松市の放課後児童支援員認定資格研修の実施			5

【特筆すべき事項等】 ・10月30日から12月4日にかけての全4日間 参加者89名

⑯香川県 女性が輝く職場づくり事業(メンター)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
2,410,448 円	-	-	-	5
実行して成果があがったこと				評価
① メンター研修	・導入研修(企業経営者及び人事労務担当者並びにメンター候補者)、基礎研修(メンター候補者)、フォローアップ研修(メンター候補者)2回の実施 ・研修の期間中の伴走支援			5
② 県内の女性活躍を推進するネットワークづくり	・県内の女性のネットワーク「おいり」の立ち上げ ※女性リーダー参加者、過去受講者対象 ・ネットワークキックオフミーティングの開催			5

【特筆すべき事項等】

・8/3 導入研修 参加19社40名

・9/1 基礎研修 参加16社23名 11/6 フォローアップ① 15社23名 1/15 フォローアップ②14社19名

・講師 蒲生智恵さん(株式会社スリーアウル)

⑰香川県 縁結び・子育て美容-eki(美容-eki)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
878,398 円	-	-	-	3
実行して成果があがったこと				評価
① 「美容-eki」フォローアップ用資料の発行	・美容-eki 新聞として年3回発行 1回目はリーフレット形式で制作し、登録店舗に発送 500部 2回目、3回目は A4 両面 ホームページに掲載とともにデータ送付			5
② 希望がある際の認定講習会の実施	・希望がなかったため実施0			-
③ アンケート調査	・既存の認定店舗の顧客に対してアンケートの実施→3名回答 ・既存の認定店舗 60 店舗に対してヒアリング又はアンケート→20 店舗回答			3
④ 店舗への働きかけ	・メールマガジンを毎月発行			5
⑤ WEB サイトの管理	・登録店舗情報の変更 ・認定店舗交流会 参加希望なしで実施せず			2

【特筆すべき事項等】

・認定店舗に向けてのオンライン交流会、アンケート調査数等、

⑩【新規】香川県 男性の家事・育児推進事業(男性家事育児)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
3,940,281 円	-	-	-	5
	実行して成果があがったこと			評価
① 家事・育児実践講座	・プレママ、プレパパ(学生含む)、子育て家庭をメインターゲットに 6 回実施(子育て支援団体 6 団体とコラボ開催)、高松大学にて学生対象に実施			5
② 講演会の実施	・さぬきこどもの国 子ども劇場にて、遊びのワークショップ、「オットの出番！ パパの出番！」と称した講演会を実施			5

【特筆すべき事項等】

・講座 男性育休の解説動画: 植田博司社労士 料理講師: パッククッキング協会 池田奈央さん

参加者 全 7 回 96 名

・講演会 遊びの講師: 東京おもちゃ美術館 岡田哲也さん

パネリスト 香川県知事: 池田豊人さん 日本愛妻家協会: 山名清隆さん、小菅隆太さん

参加者 165 名

⑪【新規】高松市 G7 香川・高松都市大臣会合関連事業

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
2,273,263 円	-	-	-	5
	実行して成果があがったこと			評価
① 讃岐おもちゃ美術館を活用した G7 機運醸成イベント	・館内にて G7 参加国のおもちゃを設置。触って遊べるとともに、遊びながら参加国を感じられるよう国の表示を準備 ・木のたまごプールに、7 か国の国旗を刻印したたまごを放流			5
② ナイトミュージアムの実施	・6/16~7/29 の間の金・土の夜を活用して、計 10 回ナイトミュージアムを実施。伝統工芸士によるギャライトークを開催 のべ 269 名参加			5
③ オリジナルワークショップ	・国旗柄の折提灯を作るワークショップを、香川大学 TERASU の協力で実施。計 4 日間 63 名参加 ・7 か国のほうこうさんキーホルダーづくり 計 4 日間のべ 99 名参加			5

【特筆すべき事項等】

・各国のおもちゃについては、東京おもちゃ美術館の貯蔵品から貸与の上、企画展示

自主事業

㊦子育て情報誌『おやこ DE わはは』 Vol.107～Vol.112

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
-円	-	14,000,000 円(税抜)	11,496,400 円(税抜)	4
実行して成果があがったこと				評価
① Vol.107～Vol.112 の発行	<ul style="list-style-type: none"> ・2 か月に 1 回、奇数月定期発行 ・107 号 特集 なんなの?! 非認知能力 ・108 号 特集 おやこ DE 防災キャンプ ・109 号 特集 成長を祝う 伝統・イマドキ行事 ・110 号 特集 おやこ DE うんどう ・111 号 特集 なんで? こどものナゾ行動 ・112 号 特集 プログラミング的思考でいこう! 			4

【特筆すべき事項等】

- ・次年度号に向けて一時休館とし、今後の発行については、次年度以降の体制とともに再検討。
- ・5 月に向けては、1 社スポンサーでの発行が予定されており、特別号として発行予定

㊧わははファミリーフェスティバル

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
4,829,260 円	-	4,400,000 円	約 5,000 人来場	5
実行して成果があがったこと				評価
① 11/12(日)イベント開催	<ul style="list-style-type: none"> ・名称を「ママ∞フェスティバル」より「わははファミリーフェスティバル」に変更し、継続開催 ・手作り品やワークショップのための、ママブースを廃止し、子育て家庭を非営利で応援している市民団体等の周知ができる『応援ブース』を新たに設定。 			5

【特筆すべき事項等】

- ・角ブース: 42/40 通常ブース: 26/26 特別: トヨタカローラ・JPC 応援ブース: 7 ステージ 4/5
- ・食ブース キッチンカー協会

㊨子育てハンドブック「たかまつらっこ」協働発行事業

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
-	-	6,600,000 円	5,933,600 円	4
実行して成果があがったこと				評価
① 掲載広告の獲得	・誌面の 20 パーセント以内で、広告の募集を行う。			4
② 冊子の情報改訂	・関係各所に情報の変更がないかどうか確認の上、最新の情報に更新を図る。			5

【特筆すべき事項等】

- ・令和 5 年度版 令和 5 年 5 月 1 日発行 (広告営業スタート 令和 5 年 1 月～)

讚岐おもちゃ美術館事業部

②令和5年度事業報告/讃岐おもちゃ美術館事業部

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
入館料収入 33,897,752 円	週 5 4	①入館者数	45,162 人	3.3
寄付金収入 1,722,813 円	週 4 2	②有料入館者数	36,297 人	
	週 2 2	③団体利用数	61 団体	

①入館者数 ②有料入館者数 ③団体利用数

目標 みんなの『ひのき舞台』を創っていく

	実行して成果があがったこと	評価
①入館者目標 50,000 人 /年	<ul style="list-style-type: none"> ・開館時のクラウドファンディングの際に返礼品としてお渡ししたチケットの有効期限が年度末となり、そこを目がけての来館者も多く、招待券の活用について次年度以降の参考となった。 ・団体誘致のために、チラシを制作し、県内保育施設等への郵送案内をした。 	3
②経営基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルの宿泊者に向けての招待券販売サービス (ホテルウイング高松・リーガロイヤルホテル高松) ・イベント時のプレゼントとしての活用(四国石油) ・出張おもちゃ美術館やイベントでの100円割引チケット、平日のみの招待券、子育てひろばのイベントとコラボしての招待券配布等、試行錯誤中。 	3
③チーム力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・土日祝日も開館している施設でありながら、スタッフの入れ替わり等もあり、なかなか安定したスタッフ体制の確保が難しかった。 ・年度の後半からは、週5日勤務できるスタッフを増員し、日常的な業務がスムーズに進むために役割を分担。 ・常勤ミーティングを水曜日を実施。また毎月第1水曜日の17:00~18:00を定例のミーティングに設定。 ・6月9月12月2月と、3か月に1回第1木曜の休館日を活用しての、スタッフ全体ミーティングを実施。日頃できない、エアコン清掃や行き届いていないところの清掃や、研修を実施。 	3
④施設管理	<ul style="list-style-type: none"> ・朝、夕方の清掃時等を活用して、破損や危険な箇所がないかどうかの確認。必要に応じてメンテナンスを実施 ・ごっこひろばへの階段やスロープの滑り止めを設置 	5

【特筆すべき事項等】

- ・社会貢献事業として、医療的ケア児、多胎児、ひとり親などの支援団体と連携した事業を行うことができた
- ・行政事業の観光や、移住促進事業の会場として、利用された
- ・お別れ遠足等の活用が増えた
- ・企業の研修の場としての活用プログラムの実施
- ・カフェ・ショップとの連携を、もう少し深めることができればよかった
- ・計画性をもって、事業をまわす余裕がもてなかった。
- ・安定した組織体制を作ることができなかった。